SHALOM-NETWORK

発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL ／ FAX　024-567-5322
Web　http://www.nposhalom.net
Email　info@nposhalom.net
発行責任者：大竹静子

「ひまわり感謝祭＆共に生きる仲間たちのコンサート2023」開催報告

令和六年 『ひまわりプロジェクト』間もなく開始です

新年おめでとうございます。昨年暮れの十二月十六日には、「第十三回ひまわり感謝祭＆第二十七回共に生きる仲間たちのコンサート」が開催されました。今回は会場を「福島子どもの夢を育む施設『こむこむ館一階わいわいホール』」に移し行われました。三百人規模のコンサートホールで、コロナ時の制限もなく、「共に生きる仲間たちのコンサート」を中心に行われました。

イベントは今年の「ひまわりプロジェクト」を紹介する動画の上映から始まりました。福島での「土船ひまわりプロジェクト」を、年間スケジュールで追いながら、種まきから開花・収穫までを全国からのお便りも織り交ぜながらまとめています。動画はHPにアップされておりますので、ぜひご覧ください。

コンサート第一部は、ケーナ奏者の渡辺大輔氏とピアニストの根木マリサ氏をゲストにお迎えし、ゲストコンサート＆講演「音楽が繋いでくれたもの～被災者に寄り添って～」が行われました。三・一一の震災時には公務員として被災地支援にも関わった経験を持ち、その後プロのケーナ奏者となった渡辺さんが、被災地での音楽活動を続ける中で「被災者に寄り添うこと」の意味を「今できる精一杯の演奏を聴いてもらうことだ」と気がついてからは、演奏が変わったという経験をお話しされました。支援するという立ち位置からでは、本当に寄り添うということにはならないことに気がついたということだと思います。

第二部はフラダンスから始まりました。主婦のグループ、このために一年間練習を続けたという視覚障がい者のグループ、ひまわりプロジェクトに参加する土船の老人会のグループ、それぞれが一生懸命晴れ舞台を楽しんでいる姿が感動的でした。

詩の朗読は、障がいを持つ仲間の詩を、障がいを持つ仲間が朗読し、詩に感動した渡辺さんが作曲したケーナの伴奏曲も加わり場内は感動に包まれました。

障がいを持つ仲間のピアノ独奏、

（二面に続く）

渡辺さんと根木さんによるゲストコンサート。ケーナとピアノの調べに会場が聞き入りました。

愛のメモ帳

十二月十六日、今年の「ひまわり感謝祭＆共に生きる仲間たちのコンサート」が終了した。シャロームの一年間の活動が凝縮されたイベントである。

コロナ後三年ぶりに何の制限もなく開催されたコンサートは、改めて人と人が同じ会場で出会い、同じ時間を共有する当たり前の時間の大切さを感じさせた。

ひまわりの種は、全国各地に送られ、福島に戻ってくる。その多くは郵便物として送られる。来年から手紙の郵便料金が百十円に大幅値上げとなるという。

思えば、コミュニケーションのためには、手書きの手紙は欠かせないものであった。今では、手書きからワープロに、さらには紙もなくなりメールでのやり取りが主流になって、手書きの手紙を書くことはほとんどない。しかし、ひまわりの種には、その人の一年間の思いが凝縮され送られてくる。

手書きの良さは、本人の思いをそのまま伝えてくれる処にある。手書き・手作りの良さを思い返し、コミュニケーションツールの一つとして見直していきたいものである。

（T・O）

ひまわりプロジェクトに賛同して編成された「ひまわりクインテット」によるオーボエと弦楽四重奏の演奏、最後は「シャロームの歌」をひまわりクインテットのみなさんの伴奏に乗せ全員で合唱。感動のうちに終了しました。

さまざまな人たちが地域で繋がり、全国で繋がるひまわりプロジェクト。新しい年に向けての「ひまわりプロジェクト」が間もなく開始します。今年のひまわりプロジェクトでも新たな出会いとドラマが生まれることでしょう。一年間の活動の姿が新たな「ひまわり感謝祭＆共に生きる仲間たちのコンサート」を創造していきます。

新たな出会いと感動を信じて、みなさんとともに「ひまわりプロジェクト」を進めていきたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

シャローム　大竹静子

ひまわり感謝祭 2023 ダイジェスト

▶会場では栽培協力者様からのお便りや写真を展示しました。ご送付くださった皆様に感謝いたします。

▶フラダンスは「リリアフラスクール」「フラサークルにじ」「千秋会女性部」の三グループが華やかなダンスを披露しました。

▶金子美智さんの詩に渡辺さん＆根木さんが作曲してくれたオリジナル曲を演奏する場面では会場が温かい感動に包まれました。

▶ピアノ独奏をしてくれたベーシック憩の羽田理紗さんと宮川華さん。

▶ひまわりクインテットの皆さん。クラシックからクリスマス曲、ジブリまで幅広い楽曲を奏でてくださいました。

シャローム YouTube

YouTube チャンネル名
NPO 法人シャローム

チャンネル登録と動画更新通知を ON にすると、最新のアップロード動画が見やすくなります。

URL
https://www.youtube.com/@nposhalom

ひまわり感謝祭で上映の動画、過去の地元学講座はこちらからご覧いただけます。

ひまわり通信 2024

土船ひまわりプロジェクト 収穫感謝祭

◆二〇二三年の振り返り

二〇二三年の福島でのひまわり畑は、児童養護施設 青葉学園の本館管理棟・地域交流ホール改修工事に伴い、畑が使用できなくなったため、隣の新ふくしまファームの畑をお借りして栽培させていただきました。

ひまわり栽培初期では、根切り虫によって半数以上が被害に遭い、追い蒔きで対応することになりました。その後ひまわりにとって良い環境に恵まれ、順調に生長しました。ほとんどの花の直径が二十㎝を超え、種の大きさも良いサイズになっていました。

ところが収穫が近づくと、葉っぱにグンバイ虫が群がりました。また、鳥たちが待っていましたと言わんばかりに食事をしていたため、対策としてキラキラテープとテグスで対応し、なんとか食い止めることができました。

このような色々な体験をさせていただき感謝致します。これらの経験を基に、来年はさらに沢山収穫できるよう天気や土の状態を考え、ひまわりの好む環境づくりをしていきたいと思います。

◆収穫感謝祭を開催

二〇二三年十一月四日に行われた、土船ひまわりプロジェクト収穫感謝祭のご報告をさせていただきます。

青葉学園の地域交流ホールが十月末に完成し、完成後一番初めに使わせていただきました。そして土船でのひまわりプロジェクトが地域交流のモデルケースとして、今後発展していくことを皆さんで願いました。

このひまわり畑の一角では野菜なども育てており、そこで育った里芋を豚汁に調理しました。豚汁やおにぎりは、シャロームと地域の方々で朝から腕をふるっていただき、ホールで皆さんと一緒に楽しい催しを見ながら食べました。

催しは千秋会婦人部の方々によるフラダンス。音楽はハワイアンかと思いきや歌謡曲が流れ、意外にも曲とダンスが合っていて驚きました。

それからマジシャン「はちまき」氏による手品やバルーンショー、クイズ、輪投げなどがあり、盛り上げていただきました。交流ホールには約二百人が集まり、笑顔や笑いでいっぱいの感謝祭になりました。

次回の豚汁に使う野菜は、なるべく自分たちで育てた大根や人参、里芋、ゴボウ、コンニャクで作りたいと考えております。また、今回失敗してしまった枝豆のリベンジと、米、小麦、大麦にもチャレンジしていきたいと思っております。

ひまわりや野菜を通して、子供からお年を召した方までもが楽しみを分かち合い、相互理解を深められたひまわりプロジェクトになりました。次回は畑にもっと来てみたくなるような仕掛けが作れたらと思っています。この度は皆さんの協力のもと、種植えから収穫感謝祭までつつがなく終わる事が出来ましたことに御礼申し上げます。

（ひまわりPJ　後藤）

▲ 二百人以上の人たちが集まり楽しいひと時を過ごしました。

▲ マジシャンのはちまきさんによる楽しいショータイム。

▲ まちなか夢工房、ベーシック憩のメンバーさんたちも参加しました。

令和六年能登半島地震により被災された被災された皆様、
ならびにそのご家族の皆様に心よりお見舞い申し上げます。
皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。
被災された皆様の生活が１日も早く
平穏に復することをお祈り申し上げます。

教養講座 地元学を考える 第二百三十七回予告

教育は未来を切り開く扉

〈講師〉永遠瑠（とわり）　マリールイズ 氏
（NPO 法人ルワンダの教育を考える会理事長）
〈日時〉2024 年 1 月 20 日（土）13:30〜15:00
〈場所〉まちなか夢工房 2 階
〈参加費〉500 円
〈定員〉20 名

＜内容紹介＞

平和・教育の大切さを訴えて日本中で活躍されている永遠瑠マリールイズさん。
ルワンダの首都キガリに建設したウムチョムイーザ学園の卒業生ウワーヨ・ティエリさんとお二人でお話しいただきます。
ウワーヨさんは画家として活躍中。現在は東京で個展、1月には福島でも開催します。

＊一月十八日（木）までにお申込みください。後日、シャロームホームページよりユーチューブ配信いたします。

教養講座 地元学を考える

第二百三十二回「地元学を考える」（二〇二三年八月二十六日開催）

「フードバンク活動の実際」

講師　柳沼 千賀子 氏

第二百三十二回地元学が八月二十六日に開催され、フードバンク二本松の柳沼千賀子様の講座を拝聴させていただきました。

フードバンクとは、まだ食べられるのに捨てられようとしている食品を無償で譲り受け、被災者、生活困窮者、障がい者施設、子ども食堂、ボランティア活動団体等に無償配布することにより、食べられる食品を無駄に捨ててしまうことのない社会、互いに助け合う社会を築き上げていくことの総称です。

二〇一一年、東日本大震災と放射能汚染被害を受けた農家救済のための野菜販売をきっかけに、二〇一三年に野菜販売活動を推進される中、被災者の支援も始められたとのことでした。世界では九人に一人が栄養失調です。また、日本国民の全体の十六％が貧困です。世界が途上国に行っている食料支援は年間四百万トンですが、日本に於いては食べられるのに廃棄してしまう食料は何と年間五百二十二万トンもあり、しかもその半分は家庭での食べ残しです。

世界の食糧事情を正しく認識され、早期から今の状況を予見されてフードバンクを立ち上げて、社会でうまく生きることのできない人々の生活再建に努力を重ねられ、共生社会を目指して活動してこられた柳沼様に深い敬意を表したく存じます。

しかしながら、支援活動は一人では出来るものではありません。いろいろな方々との連携によって成り立っていきますので、これを機会に皆さまがフードバンクの活動をより理解と関心を持っていただき、協力の輪を拡げていただけることが大切と感じました。（竹島　徹）

第二百三十三回「地元学を考える」（二〇二三年九月三十日開催）

「時代を生きた女性たち」

講師　渡部 八重子 氏

いつもなら、民話についての感想を書かせていただくのだが、今回は八重子さんが冒頭で話されたことについて述べてみたいと思う。

「昭和四年生まれとその前後」の世代。つまり第二次世界対戦に巻き込まれた方々は、計り知れない苦労をしたと話されたがそれはなぜか。現在なら中学生から高校生の年代の若者たちが「御国のため」という教育を受け、戦場や軍需工場に駆り出され、ほとんどの自由を奪われ、日々の戦争のために尽くし、命さえも差し出すのが当たり前。挙句、敗戦によって、それまでの人生がすべて否定され「新しい自由」を受け入れていきてゆけと。その中で戦時中の軍隊での地獄のような日々の事や、軍需工場の空襲で亡くなった友達の事を話す等ということはとてもつらく無理なことであったと思う。

しかし、その世代が現在九十歳代を迎え、このまま黙って語らなければ、自分の子や孫が万が一そのようなことに巻き込まれたとき、どうすればいいのか解らないまま同じことを繰り返されてしまうのではないだろうか、との考えから勇気を持って口を開き始めたのではないだろうか。この方々は今の時代に漂い始めたきな臭さを感じ始めているのではないだろうか、と八重子さんは伝えたかったように思える。

現に二〇二三年六月十日の福島民報の「戦後七十八年　福島の記憶（二）凄惨な光景を今も脳裏に運悪ければ自分も・・・」という記事で八重子さんのお兄さんが語られた記事が掲載されている。

八重子さんが大切にされている「語り」というものは、様々なことをただ伝えるのではなく、語ることで人々の心に深く刻み込まれ、そのことについて何度も反芻して考える手段になると思うのである。今、様々なことが不安定になりタモリさんも「新しい戦前」という表現をしていたが、こんな時こそ其々が過去の出来事に耳を傾け、自分たちの未来を大切に生きていく糧にしていけたらと思う。

これからも、八重子さんの語る一言ひとことを、大切に記憶していきたい。（渡邉　御門）

第二百三十四回「地元学を考える」（二〇二三年十月二十一日開催）

「ことばをつなぐ　心をつなぐ」

講師　渡辺 明美 氏

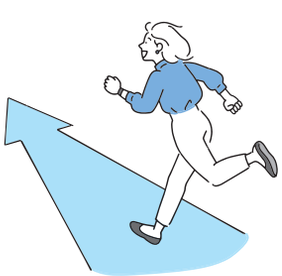
今回の地元学は、「ことばをつなぐ　心をつなぐ」というテーマで、「起業ねえさん」として子育て応援事業や起業家育成に取り組まれている「アイプロデュース」代表理事、「ママcom」代表の渡辺明美さんの講座でした。同じ女性として、母親として、女性の活躍推進事業をすすめている渡辺さんの話を楽しみに参加させていただきました。

まず、はじめに今の事業を始めるまでの道のりについての紹介があり、現在の渡辺さんを形作った歴史をお聞きしました。家庭環境や時代背景、田舎の生活の苦労や風習などを聞くうちに昭和世代の参加者は、過去の自分の生活と重ね合わせてどんどん話に引き込まれていきました。苦労の多かった結婚生活から、子育ての悩みや葛藤、そしてカウンセリングとの出会いと決断・・と話が進み、女性の多くは、「わかる、わかる！」と、同感せずにはいられない道のりが語られました。

しかし、ただの苦労話で終わるのではなく、そこから渡辺さんは、コーチングという学問で様々な先生と出会ったことによって「心のエネルギー」が満たされ、自分の周りの人の役に立ちたい、自己の成長を目指していきたいという自我欲求のもと、どんどん行動をすすめていきます。カウンセリングの先生の傾聴によって救われた経験を基に、子育て世代の方々を対象にした講演会やイベントの開催、さらに人材を育成する立場となって活躍の場を広げられています。

これまでの決して平たんではなかった道のりの話をずっと笑顔で話される渡辺さんのパワー、エネルギーの源は、人との縁を大切にし、今の自分は出会った人たちによって作られた、と考える謙虚で真摯な精神によって支えられているのだと感じました。この講座を聞き、人はいつからでも変わることができる、という強いメッセージをいただきました。私も、そして他の参加者の方々も、たくさんの心のエネルギーをもらった時間になりました。

（石髙　敦子）



第二百三十五回「地元学を考える」（二〇二三年十一月十八日開催）

「小手姫とUFO」

講師　三神たける氏

二〇二一年六月、飯野町に「UFO研究所」が開設されたのと同時に三上ムー編集長（三神たけはる氏）がその所長に就任され、二年六カ月が経ちました。竹下首相の「ふるさと創生」事業の分配金を利用して旧飯野町が建設した「UFOふれあい館」に至っては、三十一年経っています。この年月の果てに三上編集長を福島の地に迎えられたことに大きな縁を感じています。今年の講演は、三上所長が「UFO研究所」の地元の伝承を取り込んだ興味深いものとなりました。

さてここで飯野・川俣・月舘地方に伝わる「小手姫伝説」について簡単におさらいしておきましょう。

時は西暦六百年前後、大和朝廷の軍事面を担ってきた物部氏と、外交で勢力を伸ばしてきた蘇我氏の間が最悪の状況となった頃です。この二大勢力は、仏教を巡っても対立を先鋭化させてきました。新しい文化である仏教を取り入れ、その中心勢力として君臨したい蘇我氏と、従来の神道を中心とする反仏教派の物部氏です。抜き差しならないところまできていた両者は、他の氏族を巻き込みながら血を血で洗う抗争となりました。とりわけ蘇我氏は、娘を天皇の妃として天皇と姻戚関係を結ぶことで勢力拡大を図りました。蘇我氏を後ろ盾として天皇の座に就いた三十二代崇峻天皇は、当初こそ親蘇我でしたが、就任後天皇に実権がないことを知ると徐々に反蘇我に傾倒していったのです。

ある日、献上品として「猪」がもたらされた時です、崇峻天皇はつい「猪の首を切り落とすように自分の憎い人物も亡き者にしてやりたい」と口を滑らせてしまいました。これを聞いていたある人物が蘇我氏にこのことを密告しました。話を知った蘇我馬子は「天皇は自分を殺そうとしている」と考え、先手を打つことにしました。馬子は東漢駒（やまとのあやのこま）に命じ天皇を暗殺してしまったのです。

そしてこの崇峻天皇暗殺の引き金になった密告者こそ誰あろう、天皇の妃であった「小手姫（こてひめ）だったのです。小手姫は、大伴氏の首領大伴金村（皇統の断絶を防ぐべく、越後の国から応神天皇の血筋の皇族を探し出し「継体天皇」として即位させた中心人物、後に賄賂を貰って百済に任那四県を無償で割譲した疑いで失脚）の娘でした。当時小手姫は、天皇からの寵愛が衰えてきたことを恨み、この挙に出たといわれています。

小手姫と崇峻天皇には、「蜂子皇子（はちのこのおうじ）」と錦代皇女（にしきてのひめみこ）という二人の子供がありました。蜂子皇子は、蘇我馬子の手が自分に伸びるのを恐れ、聖徳太子の力を借りて丹後由良の港から船で北に向かい、現在の山形県鶴岡市由良（現在の由良温泉か？）に逃げ落ちました。ここから羽黒山に登り出羽三山を開いたとされています。

しばらくして小手姫は、錦代皇女を連れ、蜂子皇子を追って東北に逃れていきます。途中錦代皇女を亡くして一人となった小手姫は、福島の信達の地に辿り着きました。そして地元の人々に養蚕の技術を伝えたといわれています。その後、小手姫は蜂子皇子と会えないことを悲観し、川俣の地で入水自殺を図りその数奇な生涯を終えたとの言い伝えがあります。今も女神山山麓の川俣・月舘・飯野地方には縁りの地が点在しているとのことです。

こうした言い伝えを踏まえ、三上編集長が強く指摘していたのが、「小手姫が大伴金村の娘である」ということです。大伴氏は、摂津の国住吉郡を本拠地として、天孫降臨時の先導役（瓊瓊杵尊に随伴、天皇の親衛隊的役割）を担った天忍日命（あめのおしひのみこと）の子孫とされる氏族です。この大伴氏は、元々渡来人で秦氏でありました。養蚕の技術を日本に伝えたのは秦氏とされていますので、大伴の一族である小手姫が養蚕の技術を持っていて当たり前ということになります。

信達地方は万葉の頃（奈良後期）から信夫文知摺（乱れ模様の摺衣）で有名で織物業が盛んでした。福島に伝わる小手姫伝説はオテヒメ伝説と呼び、これは織物の織手からきており、日本書紀にあるコテヒメと呼び方が若干違っていますが養蚕を背景にしていることは同じだということです。（織手＝服部（はとりべ）＝秦氏）

さてここでこの微妙な差をどうみるかと考えてしまいました。気になる説があります。この信達地方に伝わる小手姫伝説について、江戸中期頃から昭和初期頃まで具体的関連事象を調査してまとめた文献（川島秀一教授…巫女がつくる歴史伝承（阿武隈山地の小手姫伝説）…インターネット）があります。

これによると信達地方に伝わる小手姫伝説は、元々純粋に機織りに関する崇敬を基に織姫を祀った、機織神信仰（機織神社等）を明治～大正にかけて出羽三山の蜂子皇子伝説と強引に結び付け、又は混同し拡大させていったきらいがあるということです。地元としては皇室との繋がりを示す歴史的背景が欲しかったでしょうし、出羽三山側としては信仰の拡大を企図していたでしょうから、両者の利害が一致したわけです。このようにして信達地方における小手姫伝説が拡大していったといわれれば、それはそれで納得のいく話と思えます。

しかし私としては、そういうこともあったかもしれないとしても、古くから都と福島は織物を通して深いかかわりがあったわけですから、やはり日本書紀にある小手姫伝説と福島の小（織）手姫伝説には何らかの繋がりがあると思えてなりません。余談ですが機織りの「機」を「はた」と読ませることは、養蚕技術を伝えた「秦氏」の「はた」を当てたようにも思えます。

またこの頃（奈良～平安初期）にかけての皇室と拘わる伝説が、中通り北部地方にまとまってある（郡山…采女伝説、二本松…安達ケ原の鬼婆伝説、信夫山…石姫伝説）のも不思議です。（このことはムーでも指摘されている？）小手姫伝説を明治大正期の牽強付会と片づけるのは簡単ですが、なぜ奈良時代から福島の地に織物業が根付いたのかの回答はまだ出ていないと思います。気候や地形が適していたとするのはあまりにも単純であると思いませんか？

さて小手姫伝説に頁を費やしてしまいました。講演では、小手姫伝説の地にある千貫森がUFOの目撃情報が多いこと、東北はUFO出現が多いエリアであること、の説明がなされ、UFOの乗組員が旧約聖書の「失われた十氏族」に関係していること、秦氏はその十氏族である可能性が高いこと、等の話がありました。講演の後半は、現在の各国のUFOへの対応状況について説明がありました。詳細は、昨年の内容と重複する部分が多く、紙面の都合上も省略したいと思います。

福島との結びつきを強める三上編集長（三神たけはる氏）が来年何をテーマに話すのか、期待の気持ちでいっぱいです。

（佐藤　浩徳）

講座に参加された皆様から感想文を寄稿していただきました。竹島さん、渡邉さん、石髙さん、佐藤さん、誠にありがとうございました。

活動のご報告

2023 年 9 月 26 日～12 月 25 日

9 月 27 日　夢工房〈実習受入〉第一小学校

9 月 30 日　第 233 回　地元学講座
「時代を生きた女性たち」
渡部　八重子 氏

10 月 1 日　夢工房〈販売〉ニューモラルセミナー

10 月 3 日　夢工房〈販売〉さんかく公園夜市（さんかく広場）

10 月 6 日　〈ひまわり〉生活クラブ様来訪　被災地訪問

10 月 8 日　夢工房〈販売〉オータムフェスティバル（桜堤公園）

10/14~10/15　楽膳〈販売〉LIVE AZUMA（あづま運動公園）

10 月 21 日　第 234 回　地元学講座
「ことばをつなぐ　心をつなぐ」
渡辺　明美 氏

憩〈販売〉いきいき！ふくしマーケット（道の駅ふくしま）

10/23~11/2　夢工房〈実習受入〉ふくしま支援学校

10 月 28 日　夢工房〈販売〉まちなかテーマパーク

10 月 29 日　憩〈販売〉いきいき！ふくし秋祭り（福島駅前）

10 月 30 日　憩〈ひまわり〉生活クラブ神奈川様来訪

11 月 2 日　憩　研修旅行実施

11 月 3 日　夢工房〈販売〉ふくしまうまいもの市

11 月 4 日　〈ひまわり〉ひまわり収穫感謝祭（青葉学園）

11/6~11/17　憩〈実習受入〉大笹生支援学校

11 月 12 日　夢工房〈販売〉第 7 回福島市手話祭り
憩〈販売〉UFO フェスティバル（飯野町）

11 月 15 日　夢工房〈商談会〉つくっぺ！つながっぺ！ふくしま 出展

11 月 17 日　福島地域福祉ネットワーク会議

11/17~11/18　憩〈ひまわり〉生活クラブ神奈川様「東日本大震災復興祭り」参加

11 月 18 日　第 235 回　地元学講座
「小手姫と UFO」
三神　たける 氏

11 月 23 日　夢工房〈販売〉FUN!FUN! ボンクラマルシェ

11 月 25 日　憩〈ひまわり〉山口県萩市立佐々並小学校様交流（Zoom）

11 月 26 日　夢工房〈販売〉みんなで秋まつり

12/2~12/3　憩〈販売〉障がい者週間記念事業（AOZ）

12 月 10 日　夢工房〈イベント〉まち☆きらサンタごみひろい参加

12 月 14 日　憩〈販売〉にじいろ day（福島市役所）

12 月 16 日　ひまわり感謝祭 2023（こむこむ館）

12 月 17 日　夢工房〈イベント〉クリスマスプレゼントを贈ろう（福島学院大学連携）

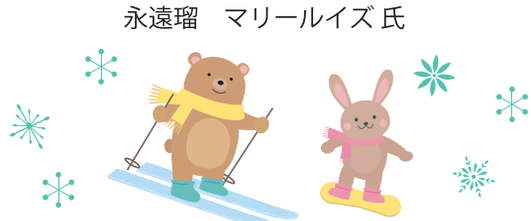
12 月 23 日　第 236 回　地元学講座
「クリスマスを学ぼう」
小林　喜成 氏

活動予定

2023 年 12 月 26 日～2024 年 1 月 25 日

12 月 28 日　憩〈販売〉にじいろ day（福島市役所）

12/29~1/3　福祉会　冬季休暇

1 月 11 日　〈ひまわり〉生活クラブ様「東日本大震災復興支援学習会」参加（Zoom）

1 月 20 日　第 237 回　地元学講座
「教育は未来を切り開く扉」
永遠瑠　マリールイズ 氏